

痛風と冠動脈疾患患者の心疾患 リスク

痛風のある閉塞性冠動脈疾患患者は、そうでない患者に比べて心血管疾患の転帰が不良になりやすい可能性のあることが、米デューク大学の Neha Pagidipati 氏らの研究で明らかになり、研究の詳細が「The Journal of the American Heart Association」誌に掲載されました。



6.4年間（中央値）の追跡の結果、冠動脈疾患患者は心血管リスク因子への積極的な薬物治療を受けていても、痛風があると心血管疾患の転帰が不良となり、死亡とも関連することが分かりました。



また、研究開始時に既に痛風に罹患していたか、追跡期間中に痛風を発症した患者は、痛風のない患者に比べて心血管疾患による死亡や心筋梗塞または脳卒中のリスクが15%高いことが明らかになりました。

さらに、痛風のある患者では、そうでない患者に比べて心不全により死亡するリスクが2倍でありました。

